

繪圖 御山

日亮山名錄

全

213

二

全

渥義景通

序

此の山を之地の神を

山川をともとてと偽一併

雲窟に神明の扶護

三多ふ所なる海と東國第一

の聖場は新次屋了故小



幸ふらば心より次除け憚る次
二世は勝縁と結んだ先承り
訪ふ人日た盛んが利
終ふに雲區不ふあふ初
来ふ心未ふくもおし痛
事し成悲ひふ其道志ふ

勢人事紙思ひし海を
年を怪る集ふ一冊と
決ふり地

貫首大主の言傳と承り
か紙まゝ執事の内也ゆり
昔は事し許し結ぶ

ありは久しき事者も諸人に
 志もふまじくおのの也

享保十三戊申二月 鷹橋我武城之



○日光山名跡誌

日光山名跡誌
 柳下野国都賀郡日光山人王十代孫德天皇
 乃御宇神護景雲元年勝道上人法開基の里
 上人の洞小芳架の室乃尺端はく法蓮法友ハ
 垂仁帝弟九乃皇子卷向法号十有余代の孫若田
 氏高の着庵といふ皇母の正二位大后吉田清原
 乃是女なり父母嘗て子於て事と親と一洞洞
 出流山千手大士小斎の御里終ふに七日に満

夜八葉乃蓮華の如く花の如く花の如く
媛の隈にやうなる如く
懐妊し上人を生ずる則ち夢乃若くは
雅志を履糸丸と号する如く上人幼立其四行
て佛教を志す如く彼とある見土をある如く
建立の如く上人如く五漸く長ありて出流の
如く音にありて種々勤行の如く度く不思義乃
如く告ありて日光の如く剛制如く事如く行
如く立如く

廿七歳乃出河内國東山如く得如く如く
如く如く如く如く如く如く如く如く如く
本宮四年如く如く如く如く如く如く如く如く
自余乃其如く如く如く如く如く如く如く如く
慈覺大師如く如く如く如く如く如く如く如く如く
星霜八百余載乃後之如く如く如く如く如く如く如く
同如く如く如く如く如く如く如く如く如く如く
東照大権現高小所鎮座あり如く如く如く如く如く

婦メ一ヒト之ノ神カミ威イ海ウミ内ウチ小コ經ネ一ヒト終ハシ人ヒトも編ヒラキ小コ号ナメ之ノ絶ツク
 倫リン不フ之ノ小コのノなりナリのノてテ糸イト緒ヲ乃ハ其ソノ緇シ書シヤ群ヲとトみミとト
 いイとトもモ可コ々ク乃ハ堂ドウ社シャ旧キウ経キョウ本ホン其ソノ便ベン便ベンとト尋ズル得ル便ベン且ツ
 糸イト緒ヲのノ志シ一ヒト切キりリてテ糸イト乃ハ半ハ寸サツ者モノもモあアん
 形カタル也ナリをヲ一ヒト冊ハクとト求ムるル容ヨク易ク矣ナリ必カナラとト辨ハ一ヒト糸イトく
 遠トホ近チカ乃ハ後ノチ記キとト好スんニ一ヒトとトあアらウくク一ヒト書シヤ一ヒト
 綴ツグりテ見ミ流ル結スとト号ナメ之ノ也ナリ

日光山名跡誌

- 神社佛閣 ○ 坊舎并人里
- 名所舊跡 ○ 日光寺前くは道法
- △ 日光山入所筋 今市あり日光と三雲の石並板
- 人里ヒトサト汝ニ毎ニりリ正マサニ本ホン戸ドをヲ入イるル ○ 松原町 長チカテニてテいイるル
- 石倉町 長チカテニ町チヨウ改カヘ東ヒガシ側ガハ小コ ○ 瑞雲山龍藏寺
- いイきキありリ寺テラ内ウチ小コ三サン三サン觀カン者モノとト安ヤス座ザにニ中ナカまマにニ坐マすス
- 大オホ牌パイ一ヒト刀タガナ三サン祀ヒメ乃ハ佛ブツ一ヒト並ナリ糸イト財サイ天テン堂ドウ意イ心シンのノ作サク

なる里寺下野坂東三十二番乃礼取とせぬり○河
 幸町三丁 东例中祀小稲荷町(の横たわりの田)も
 之町中祀小徳寺乃久めり石列家神本地虚空蔵并
 此里稲荷の文もありとて河幸町より○鉢石面
 此町上中下三の小別も下下神不町东例小横町
 あり八し女町といふ是より稲荷町(をり河幸町)酒
 河坂屋敷あり下神不中祀小宝珠院宝蔵坊之小
 寺ありと月六親善堂あり運慶乃下下野坂東の

礼取町の町向ふ見ゆる鉢石山観音寺と云寺
 与月山上小千手親善堂一字弘法大師乃法作あり
 上俣石町高木塗物梳打曲物木河と云ふ店あり
 右入口松原町より南町出立中を凡町長十三町旅あり
 △下馬 此所乃方石庵本と芝里森の四
 △星宮 殊殿あり本寺八天童子秋虚空蔵堂
 なる洞文乃洞と云ふ小南河上は出立入碑の若勤乃
 入堂あり星の宿と云ふ毎年松月廿六日行若下長

帷子一ツ條懸一糸はくくくは動行く明年乃
 二月下旬に宿ま出二月二日結城出雲守天下安金
 園主豊徳乃所折他園ふす乃乃荒河之悉
 くの記し。一。因山ぬとくは。見月明神
 ○下系石ありいあう東の方に見ゆる松六小倉山
 そのとく大あちふとく熱上とては志うるま五十四方
 ありくくく峰くはくぬとく

△御山入口 神橋 榎干擬宝珠ありつるも朱塗

あり此橋古ハ山菅乃蛇橋と云開山持道上人始く
 光宗の河比川ふとて橋おつた深砂大王忽物と現
 一青赤乃二蛇を放て橋となり終ふ丈例あり
 水管と新蛇ふ渡ひ渡る終ふ山菅乃
 蛇橋と云仲古より神橋と唱ふ橋乃行杉
 三通りあり日光あり乳の末と云西の端一乃
 乳の末引ぬ一穴ハ龍宮通く一ハ橋は内小
 七社乃明神と勧請あり末末不淨乃者と

後さび橋の東に神事法楽法式あり
常々法橋の東に飯橋ありて住居なり

○飯橋 橋于あり住居乃人馬あきと渡り大谷川と云

川上平禪寺湖水の流なり橋あり御番あり回廊

大乃もの坂東山佛宗谷橋舎の乃藤之坂下は

○碑あり是は 御神領橋あり南西と祈り海乃

並松平頼門大文海寄進乃碑あり同前の宗

見ゆる本宮乃社しと云り神橋向い

○深砂大王乃宮 鳥居乃額は 大明院一品准后法親王

の震筆あり本地毘沙門天神橋と纏の天神し

△東照宮への乃藤神橋乃丸あり 老る坂と長坂

といふを丁半程あり回廊と云ふ月十七日九月十七日

御祭後の湯藤前あり長木少く三品立の御膳あり

儀へ俗人舞樂を奏しと云くの御祝式あり

○長坂のり中し有り寺地すあり内津土院と云

寺内小安達氏孫九郎盛長の石塔あり(町表)

御本坊



廣高敷



永観坊

浄土院

盛長寺

慈光坊

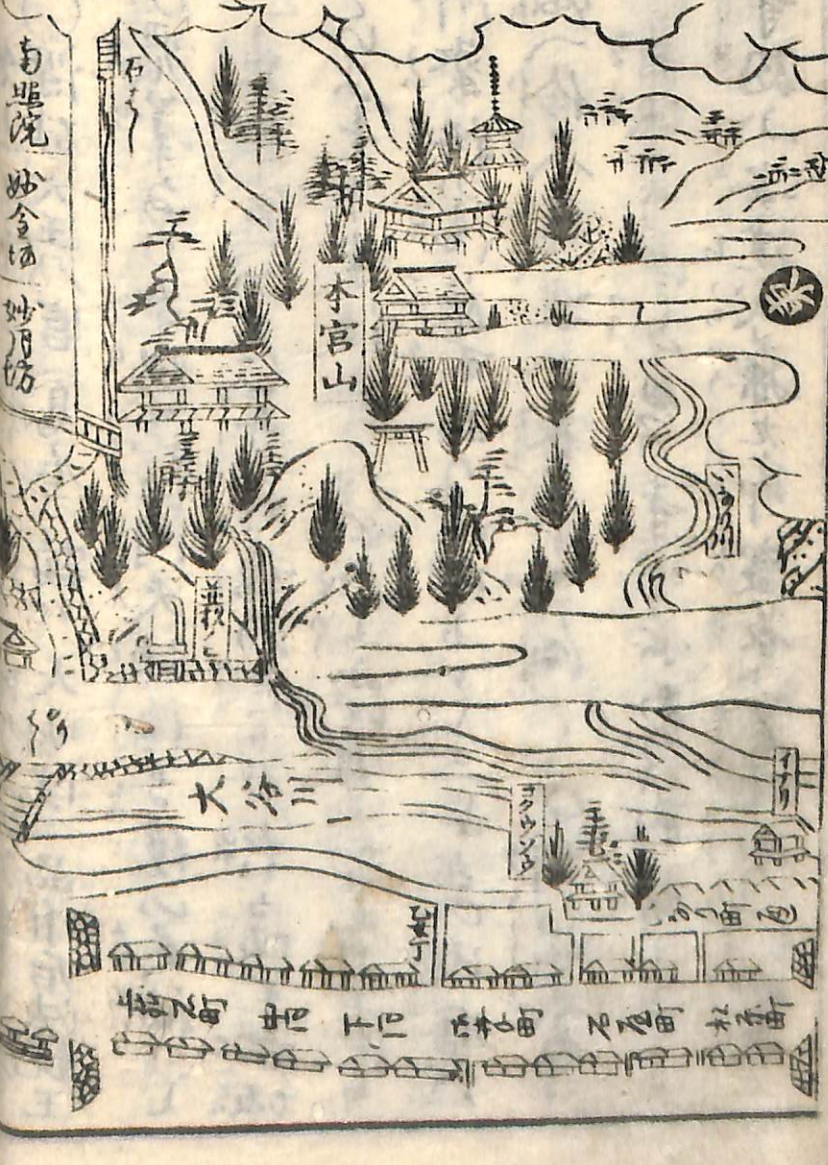


坊中
坊尔
坊采
坊秀

妻居所
収利坊
住持院



南照院
妙令坊
妙月坊



本宮山

大津

ヨクウヤ

橋下町
下町
石町
石町
石町

通りたの方所圍ハ 御敷地なりたの方所寄坊
輪王寺の堂より多るとれり石屋本を也との

○也乃鳥居 是ハ黒田城前も長政の所にかた

鉦石と刺聖南海敷百里と運く元和五年卯月

御寄進し 御願ハ 後水尾院震動した北方

五重乃塔 是ハ酒井 横波も御寄進し奉る

東の茶所 西ハ法院 六杖廻 南ハ多宝中央大目し

○御被敷 是ハ 御宮場 遺留ハ法時 下遷宮也

ちも本なりた本あり二六時の鐘と撞りあり

雲月十香公庭より 舟乗御湯と奉る 則

庭廻乃釜三あり

○仁王御門前 此御門前石屋本御石建篋兩基ハ

美狭國司酒井横波も深大勝胡長所納河本也

○御番所あり 此御所より 此御所より 此御所より

て 備と左右石垣の月小壁横三間御石大石あり

此御所より 此御所より 此御所より

佐賀乃 城主 隅嶋 信濃 守 把 前 方 乃 石 河 守 以 七

沙 草 納 之 系 諸 之 男 女 手 洗 之 儀 亦 之 如 之

○ 唐 洞 御 華 表 曰 夫 也 ○ 一 切 煙 堂 傳 大 主 氏 像

乃 乃 條 不 矣 似 之 云 之 之 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

○ 鐘 樓 鼓 樓 曰 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

迴 金 燭 臺 有 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

も 有 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

○仁王御門 仁王の御門 左右河畔仁王長テ一大式足金裏のあり

唐獅子のあり此御門を入々たるに金建の龍の燈籠

ありあまの緒大なるあり此御門のあり

○御藏云々不世後ふ○御剛のたれ方○楨一株

○御庇 素木造し此神馬三匹あり常ふハ下

殿に立 所祭礼の石河び西へある○御番所

○御手水屋 此御手水屋のあり柱に建り

天井の形物に海不龍形あり此水と津ハ肥前

佐賀の味主燭嶋信濃当肥前大なる石河屋にひて

此御門の素緒の男女子洗ひの御所とこれあり

○唐洞御華表 同たれ方○一切経堂傳大土像

あり倭不幾仏と云々を石河屋と云々にてあるふ

○鐘樓鼓掛 同たれ方以糖餅あり獻上乃

迴 金燭臺あり并河蘭池あり献す釣金燭臺

もあり同たれ方小御餅あり献す石河屋あり

此後たふつるに正月二日此御門の時唱とて

流疎りの上三十六釘乃焼基ありけき以徳念

御奉納の焼焼基ありけき以徳念

○御奉地堂 御中書、茶味、茶味、三所風、茶味

修徳系脈を換一 二菩薩十二神を各墨以

此所堂大伽藍にしてお徳也のあり柱金襴巻

長押乃此改ふありまごくありまも金根と漆め

あり板室殿の天井ふ長八間又端の一方龍乃

給わの指置永真安信等あり

△陽明御門

世武主の御門よりかどむとて所門内へ入る

此所門板を改くも

棟裏の陽明門と換くも

建り表の六隨身あり橋小矢大長と云つるも

持彩色し敷をせらるるハ一く正の人此あり

ある鄙人物を叫ひう事しとて了る事終ぬ

守り不審しともも理りし裏ハ風神雷林

を去り御門の御額ハ 後陽成院ありぬさ勢

初ひこの表鏡し橋小勅額門とて云熱トて

名跡

十

此神門乃係梅舌端不及びく筆鋒にもあらず
也一彫物ありく、いざ、思ふに琴棋書画周云且
欽揚費長房盧敖琴高阮籍嵇康豊子王子猷
孔子顔回と云下れを、三笑は友六伯九哲に
對するまで悉く記す小筆も存る歎歎の豹虎
龍鱗鱗獅子猿の事も南屏の塔も刻あり
ありひいとのまふあり、さる所もあり、風凰孔雀
を、か、名も多あり、是れを、我、乃、禽、獸、ハ

い、不、及、を、乃、の、事、も、物、彩、也、し、君、に、賦、金、ハ
ハ、多、知、り、多、好、く、藝、ハ、博、く、よ、考、う、り、を、そ、按、と
目、不、達、る、風、情、多、う、中、の、通、う、乃、天、井、の、記、ハ
將、堂、探、出、守、信、尊、し、乃、同、の、天、井、ハ、天、女、の、畫
里、方、名、神、田、廓、折、也、一、百、回、余、あり、何、り、も、の
樂、天、が、友、子、猷、が、君、と、樹、し、も、の、文、を、好、れ、來
を、を、り、く、く、い、ざ、か、つ、神、門、と、今、庭、ハ、
浦、也、の、東、ハ、六、浦、川、又、是、也、川、也、う、り、也、也、一、なり

おのりくおはらふ

○神輿堂 くれい二季の 御祭礼の時

おのりくしはらふ

○神樂堂 毎日乞女お供し神楽奉仕はらふ

○寶曆堂 奉仕五天尊 奉仕十二天を安んずる

おのりく正五九月十日より十七日までを天下安んずる

おのりく神樂奉仕をせらるる

○御唐門 素高造り 御唐門より龍り 御唐門

乃彫物ありおのりく 乃彫物ありおのりく

七賢七福神おのりく 七賢七福神おのりく

御唐門の御唐門 御唐門の御唐門

御物至り 御物至り

御物ものおのりく 御物ものおのりく

御物し様飾り 御物し様飾り

御物し今のおのりく 御物し今のおのりく

御物し紫おのりく 御物し紫おのりく

○御瑞籬 此御物千草万草此花也

好むてもあつたの色もいふはるまじくはひれり

○御祥殿 鯨口三雨ふりし御祥殿乃内左志

是より孫一を多し御祥殿乃内左志

御着座乃同あり御着座乃内左志

舟ハ 狭水屋院表輪形り繪い土佐左近将監

あり 御着座の間ハ表同ととふ是御の名

香樹を集めて造りあまを偶其室不入の

深さるゝおのほのうき 御着座乃内左志

しとと白ひぬ日除る海に籠ふ焦す乃

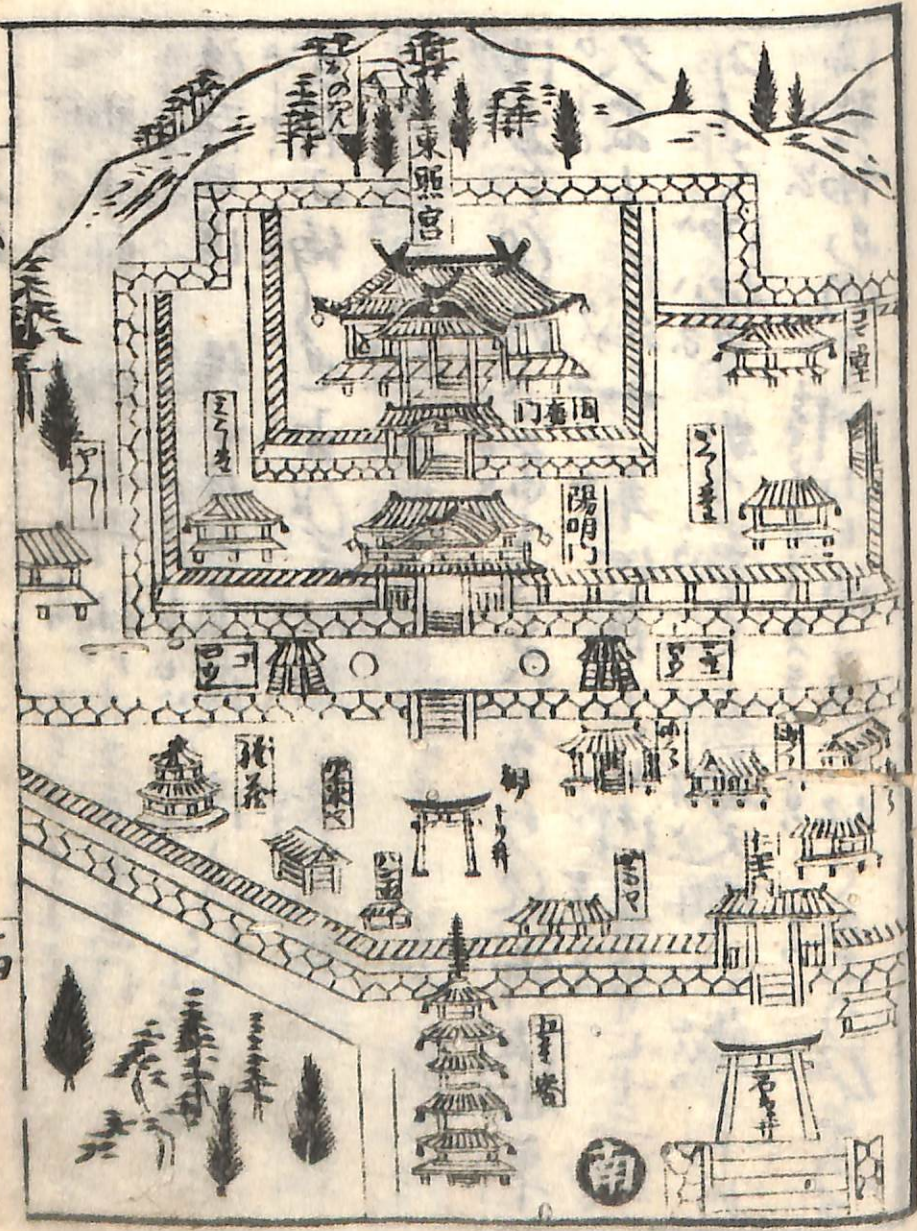
羽毛乃類金玉を丸め眼乃内不入る廻る

はるて籠れ用用乃香おとん七は眼くらめ

飛翔人々とのの習ひあり熱しとひ 御着座乃

雄美いりゆる群すも手紙捲座一以地記

とひく書ととと金とにあり



御本社

御當御社人王百有餘代

後陽成院

後水尾院御洗乃御定に奉て天下法

氏將小傳とせむは吐捨乃骨を躬行て世に

乃御八島御外高藤唐共をそとせむは

御あまの御孫をそとせむは

久安一と元和二年に月十七日御壽筭七十三歳

御一と御他界あり奉て慈眼大師と御一と

御美御あまの御孫山王神道と御一と奉て

御時

勅使下向

東照宮大権現と尊号と贈て世に御代

天下と掌乃御ふとせむは

鶴乃警覺重の御水にて泰平と千万

とせむは給て人新とせむは

大なるにせむはのなり

光也乃應作相殿の摩多羅神山王大権現

おまを 東照三社と御一と奉て毎年四月十七日

九月十七日御神事あり四月十六日以例幣使
と下し給ひて宣命以指しむ武江あり 御石代
とて高家元一人は奉勅回 御祭禮をいれ
とて大なる二人奉勅則 御祭禮を堅固の
當社の御祝式嚴然あり奉りいかりく等子言ひ
傳くといひて正五九月い御座美の宮様法
奉り一山住僧前社殿の御い給人仕あり
天下安平乃涉行里安重

○真乃院 御本社の後山系あり 所室塔宇
洞より系御棟敷御宝藏あり其の末後ともか
系清くあり 御宮より下向して仁王門あり
たのきなり ○御別所大樂院
東照宮法別南寺なり毎日いあり 神依
備へらる御り仁王門あり西より通い 新宮
権印の馬場あり是より三佛堂をて二下
る物志のいふ

△相輪標 佛の傳教大師六十四句乃法教文と
 紀し之巖山と娘の日本六所不達也と
 是亦十余州の法行あり切法也其の法は
 善眼大師尚山不達也とてしは亦あつる
 人倫のふ及を以て其の類ひもて佛果
 得とす佛を在親々一見法縁の事は現在
 無量乃罪を減し未素の永く三悪も
 離るる事ゆゑ疑あるがに甚深微妙法

有るも興くりく記す
 △新宮の鳥居 御額 正一位勳一等日光大権現
 とあり一品宮公寛親王法皇御あり
 △三佛堂 南山一乃大伽藍一廿五弘院長
 九尺五寸千手馬頭等のく八尺寸慈覺大師の
 内乾の淵小勝道上人乃法縁あり其の淵に
 軍荼利明王の像あり此堂の謂永きれを

略くも色り一丁後方千里

○常行堂 本名八宝冠乃落陀山寺

摩多羅神立即い堂に頼洲系常行堂

とく信小頼堂といふ凡此堂ハ人王五十九代

宇多天皇乃御宇寛永五癸巳年弟創あり

あり指を頼小八百五十有餘奉り及ば里並り

○法華堂 本名普賢菩薩鬼子母神土羅利

三十番神傳教大師乃信頼あり此堂此河あり

人王五十三代淳和天皇此造り天皇二己巳年建

立多り此堂に信教大師法華堂の法華經一部

納せありとてい此堂のる乃あり是と二町ほど也

△慈眼大師堂 天海沙洲あり寛永二十癸未年

十月二日此入寂あり勝道上人乃名高山五十一代

の座主に中興の所開山あり凡

東照宮南に鎮座あり万代不易の基と

新く此の寺を大脚の山極あり海の邊

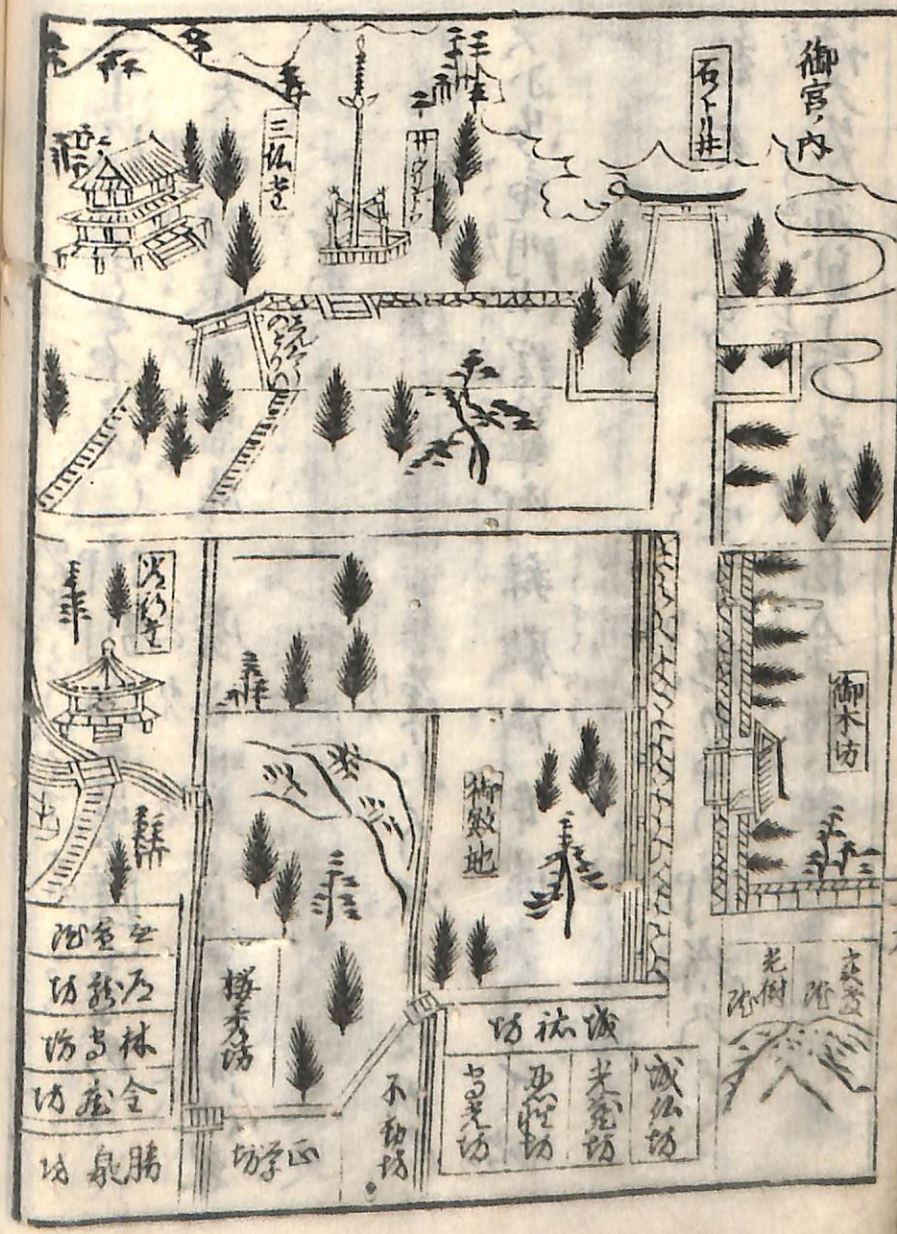
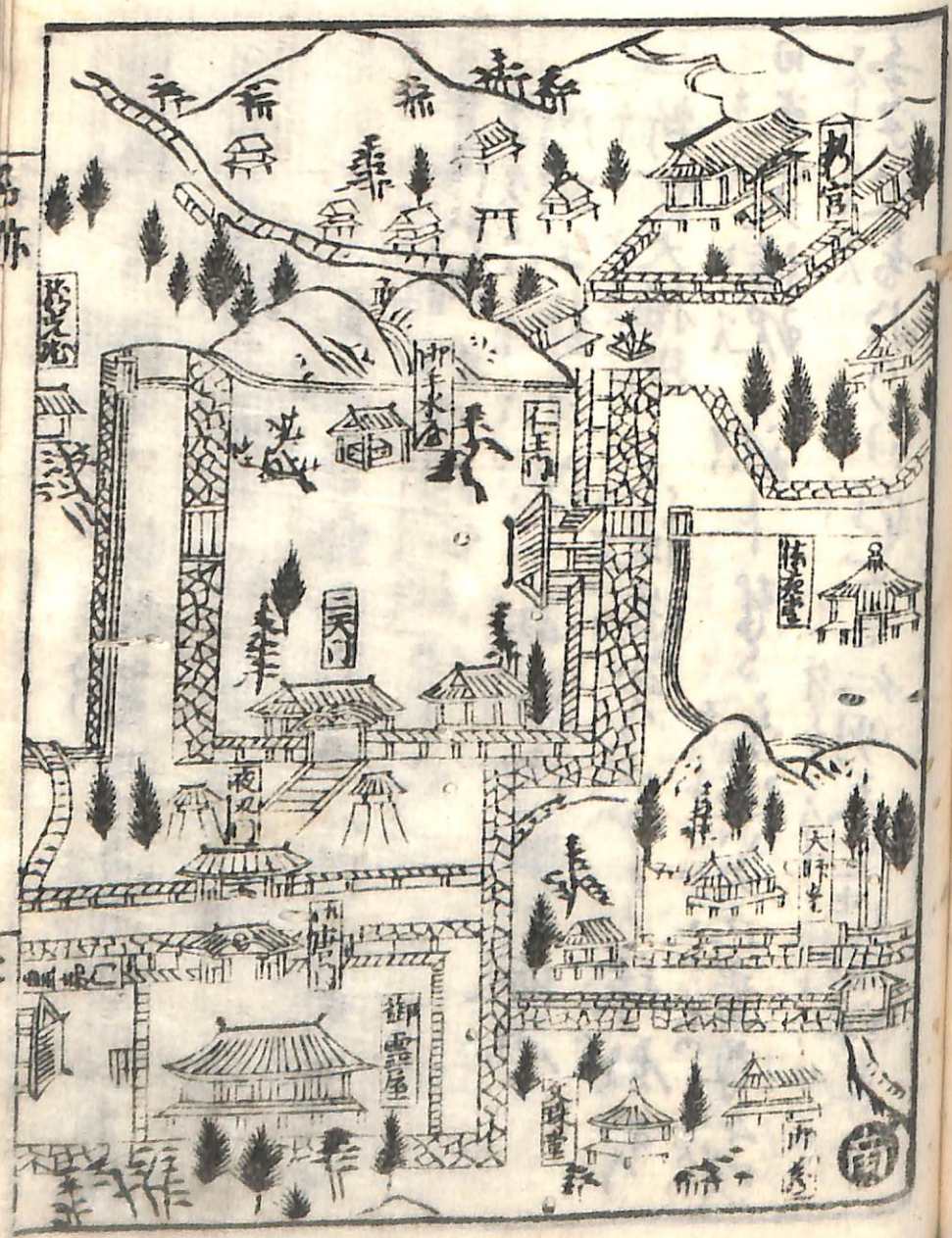
新く此の寺を大脚の山極あり海の邊

此の山あり今の兩大陣の法一神あり法極殿
 乃其の山あり法極殿并御三法家法大なるなりは
 上りて五燈臺あり法極殿の方のたより○龜井
 乃水一編前の中あり○石佛乃之寺あり法極殿の
 小高の山 御座主御所あり
 本照院宮 久遠壽院准三后 解脱院宮 大明院宮
 法極殿あり法極殿(○)文殊堂大陣乃其本如堂し
 求國持堂美小鐘梯經藏法供所ありられり

三丁ほどありあり○御別為無量院の寺あり
 大猷院様御靈屋 慶安四年四月廿日 御地界
 高小の山あり法極殿の先惣門小仁王あり法極殿
 門の額あり 法極殿院御座主あり法極殿
 法極殿門あり法極殿御三法家法大なるなりは
 法極殿乃其美なり 東照宮あり法極殿
 彩色ありあり七宝と法極殿あり法極殿
 法極殿乃其美なり 東照宮あり法極殿

名林

一七



御宮内
 三仏堂
 御雲屋
 天野堂
 御殿
 御敷地
 御水坊
 御泉坊
 御林坊
 御金坊
 御山坊
 御光坊
 御忍坊
 御光坊
 御成坊

神鮮より秋ざる入全地爲あり此洲堂へ入来指
 とゆふされど毎季正月廿日四月廿日 御名代
 として大石元泰勤なり其小治之安老津方
 うる代孫あり同家小のこ
 ○所別不龍光院 毎朝所膳と傳ふ
 △新宮大権現 八棟造ありあり拜殿あり
 日光山大権現と稱卜せり新迹ハ大己貴尊平比
 手親善なり社比と云仁明天皇此嘉祥年中

慈覺大師出達立あり凡國中の大社あるが
 東極にも及くより此権現乃所利並五穀滋福
 法園流乃御神あり方氏奉之傳ふさる
 ざらなり一神室ニ移り切丸太の屋臺太口
 拍太刀のみまも五尺余あり其銀あり赤小山判官
 是の奥列泰衡進伐乃初掲きき一とるあり

手不沙宝物... 申は之勝道上人... 不徒書... 毎来三月二日... 云社乃神雲... 其日... と... 神...

中三佛堂... 乃虎... 慈覚堂... 常... 新宮末社... 阿弥陀堂...

○大黒天堂 聖堂なり ○十五堂 ○地蔵石

うしむい向のよふのふら龍光院寺に於て是より

た乃方滝乃尾乃よ入 新なる滝尾を十二丁

余あり小坂とありの中ほどに

○薬師堂 此のあり其水出るとんと湧く目と

洗へむ後醫 立ふ時 是はゆめて因洗茶師と云

○行者堂 坂乃とありふあり本堂彼行者し

ふ小 道公寮并ふ ○御番ふあり坂乃其

○お橋あり 是と御 遠橋と云 くれあり 大赤使林ふ其の

所ありとせきあり一丁ほどなり

△山王社 向拝造りあり 是より居あり此社ハ

と御 奉申 慈母大師山道管聖真子大権現也

所 聖白村山王と仰ぐ七社乃内あり

○不動堂 本堂二童子も也 運送乃作しし向ハ

滝尾とあり流し石居也 此より中程ふ ○三益

赤倉大明神乃石社ありたのちハ ○坂中不動石佛

あり○熊野杖とて著は養八味あり飯上ハ
 御別系い所はく日光責とて食物と云む
 者あまを其食物と云ハ強毒と云し明りてふ
 搦持をその黄之具あり、強毒のいもつ又
 大なるおたふもあつて別ありいりあり
 及んば海神所方はくもい事あり地おろし集
 里くは作せ来とともい勿論に成てて
 御宮 御霊屋 涉代系此大なる大せの

東邊ハ地走のい飯と強る半左例し
 日光の如く糖子婚祀新宅木の積系
 如くは日光素と云ふは其不故ある半
 て中人は其甚行禱と云ふといひ
 氏家の地系素類と云ふて其あり
 西の世別所なり流の向河素類存と云ふ
 ○正観音堂 奉る長片余并三番神例
 ○採燈護摩所 奉る石佛の不動尊と云ふ

入峯乃備荒物なりける儀上ノ如く又遠ある

事し乃是の別ありともらんあるなり

○石乃多居 比志の方の撞撞ありき少少撞撞あり

○撞門 孝仁仁王裏の風雷乃二天と建の都弘法

大師の湯筆はく女鉢中宮とあり高門と云ふ御拜奉

○御本社 向拜造り滝尾大権現八面心非命

乃宝迹はく本如阿弥陀如身あり此法柱人王立代

造御天皇乃湯射ふく造造あり凡此の如く

形も真徳の湯柱と云ふなりと云里物湯神宝あり

弘法大師の筆やると云云の如く不動尊内尊石

指乃名号秘号の仁王との本をくると云ふと云

とんがはく云云と云ふ天の湯と云ふと云ふと云

水や玉いふ宝物ありと云ふありと云ふ社ありと云ふ

○千手堂 宝形造り中尊ありと云ふ弘法大師の御作

○御本世堂 奉書河津池親善坊美の言も懸物あり

の御作あり凡日本三牌の本もありと云ふ同前造り

○根本社 小社しおきうり西のくうのたのぬい

○子種石 数よおきわりの子ぬと人いふよ約付

○あゝ利生ゆるといふとをさうり

○泉の所涌池 池津七入海とありむりしり

涌涌出るといふとふ今まおとく酒のきあつ 吳水

あるじ中よある石社、辨方矢形り

○三本杖 本社の後ふり三社の神農くき書言本

○二十番神堂 鉄塔 是は六十の部納経乃

不形り是より下向と及のりてふ ○版盛杖 杖

古き老杖あり外の杖とらぐひと身さうせり

いそと ○杉那門 と云あはれを井あり又たのあふ

○御神馬碑 是は御経の馬馬なり 慶長庚子の

年濃列園東所陣のきりも此馬は 是は徳勝利

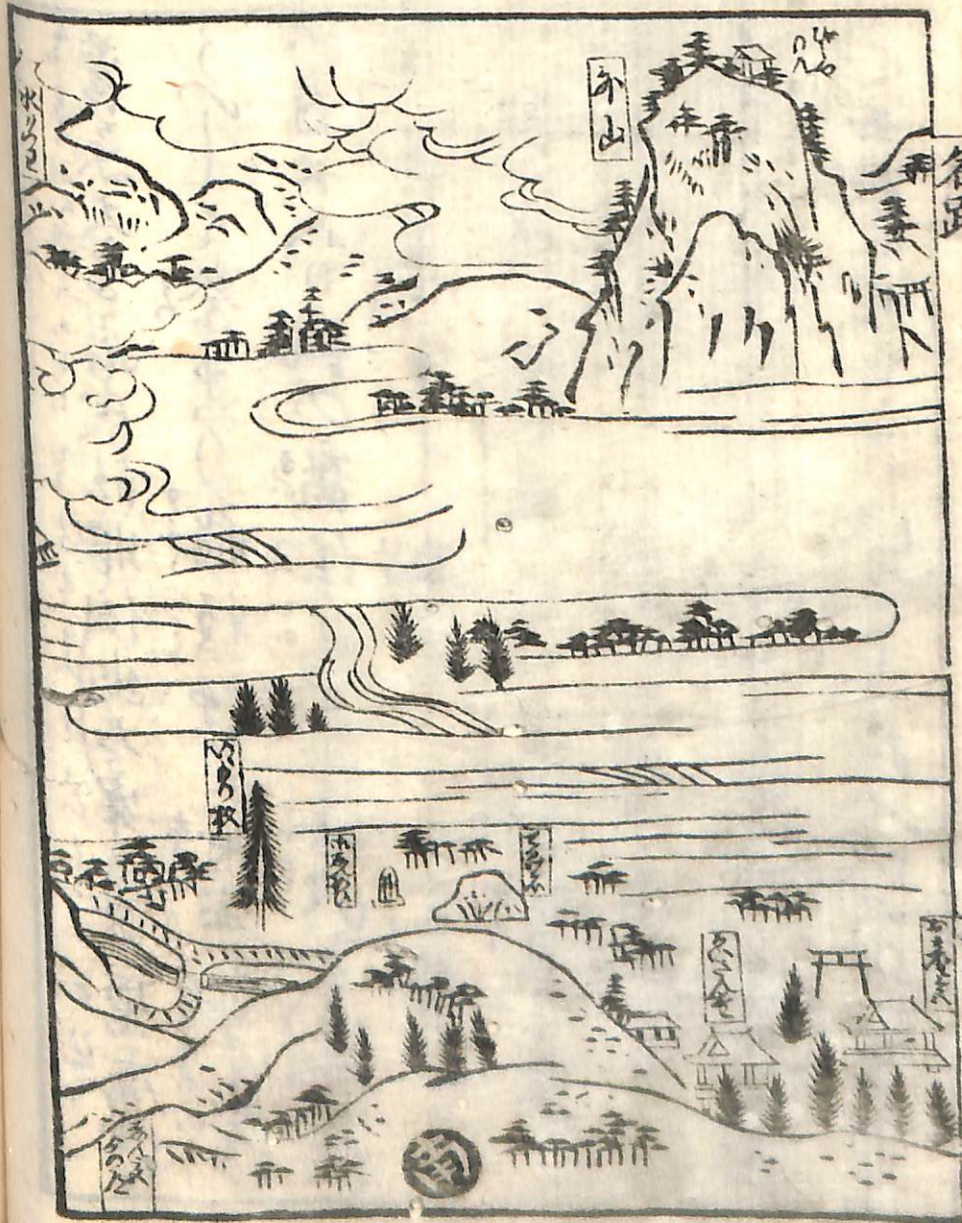
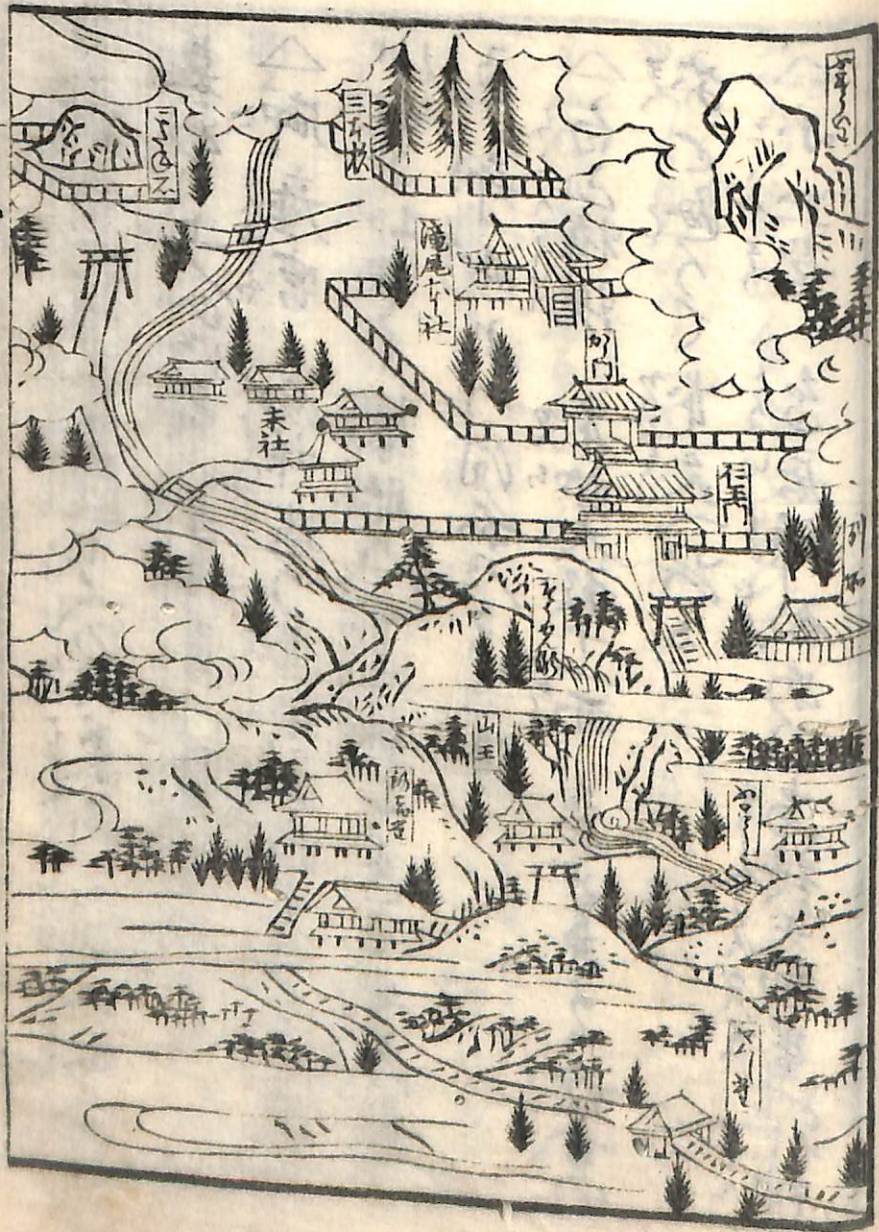
ありし碑の徳い星霜ありて是て

○子掛石 け石むり 粒現の法とていふ

とてぬたの方の稻荷川と白く

△和山 とやま いふ小昆沙門天立世持小高小の忍門に
 ありのくお護れた光身るとな山月三日月御目小
 く多清御集とののせり ○氷岩とてと
 舟おも氷とて又凍との家 ○不動あり
 程小舟く入 ○七滝あり氷とてくりのせり
 七石と為とありい西へ八人帯にせり
 ◎天神社 てんじんしゃ 磯尾の千四とてこのお岩あり
 石の中へくくれば寛文元年未年二月廿五日

△菅系 すがげ 文高 治氏法眼伝幽老宰府乃聖唐沢
 うへと系事り 稍経て延宝七丁未年
 六月廿五日彼の高松秋石の社とて造堂
 神殿築 かみでん 斎 いそ ○十王堂 じゅうおうだう
 △地藏堂 じざうだう 宝形造りなりい西と伝をい
 本尊は座像あり運交の作あり兼務道士の
 小敷は十才とて造の法形ありて人の如儀
 乃每延を連とてい西とて造り故小園山堂



のあり○河原裏に上人の所墓所は守子ある

墓あり上人の所墓の中禪寺上野橋小淵寺あり

△御産宮 向拜造り尚社に本世普賢菩薩

し西よおわく壇胎乃女立形と述正安産あり

子奇妙形河原乃らるる

△白山権現 本如大形十一面 えてさきより坊舎の

まどとぬりて本交へつる

△小玉堂 鳥居拜殿あり 尚社天神星比神

あり奉世金輪は社のいも是に秘事きりて

あり是のり一丁御寺にて奉宮の壇屋に入る

あり善妙寺あり乃堂あり

△四本龍寺 宝形造り奉宮に千手観音并に

五太夫侍道とあり尚と尚山岡とのと上人住居

あり

○三重塔 奉宮 秋也 文殊 普賢

○御本社 奉宮 秘教あり 奉宮大権現あり

味非高彦根号本武馬江親善なる大同三戊子年
 孫道びあ又勅清あり高社に宇都宮明神と清一神
 あり別所影多々明神の家にも日光山慈現太郎大明神
 と御とるあり高社神ありて去運長久弓矢以
 所多神あり神法高大ありありて推さるる
 書りてらんい思あ事をも記りありて元下野社
 あり神室い 天照天神伊弉册の十一面観音神あり
 娘の蓮花ありて織りて切枝珊瑚珠ありての

品くあきあり末社に新成天堂 英十五童子
 ○麻治社に地土面 ○奉地堂に改修 ○山王宮(稻荷社)
 ○棟梁廣摩示 石群の不動 大日 薬師 ○鳥居 ○三番神堂
 ありてあり ○別所は不動も日光貴の具とあきけり
 別所の内ねありて面は土面観音と表とて別観音
 あり神ありありてあきけり別所あり長床に間ありて
 秘密護に修所の間ありてあきけり柱に三佛神と表
 て建垂り故不穢不淨の者ありてありて

地とさるるり多し一此別所乃西のそと森の月

△三乃宮本坊普賢菩薩△一此宮熊野権現い此社の

所縁所のとふ立りそをたふり神格の本にりて

西谷の坊舎本西所此乃大谷川の川端と遊りし

△又是よりかの方より川と渡り七所社あり天台深院

ゆの真雲院と号し當山御座主宮様所建立

鐘樓門本堂二社権現社一切経藏本建り塵

外幽閑の靈場殊揚る半云燈のたじ御願ハ

戒光殿一品法親王所養筆し△南谷 西谷

善女寺谷 乃まも神橋より西の水

乃法七八所わり兼日光所奉行所因代大滝

此若草の庭姿もまた花に是より西所へ

子所くハ○比軒所○原所○小袋町○本町

上中下 三つあり 大工所神下 板枕所 ○蓮華寺 此所の

自宗小田母次とて多徳わり △妙道院 原所の

とる意小町の世寺一山の善提所し寺内ハ○釈迦堂

本寺住持の教述 文殊普賢真心の所傳し

善美眼大師の所製あり 大猷院様殉死乃

諸士位牌あり堂の外に殉死の石碑と之の是堂あり

常住不空の念佛と彼を堂にうつらふ

○愛宕山大権現 寺形まじりてしりて所傳

○八幡社 尚阿の所守あり善小○六比蓮堂は堂の

うしろとあり宗光寺のあり神格あり宗光寺三平

所余ありま及入口の所傳○延命地蔵堂とれり七八町

りて○此石は石のよふ不形ありてとあるなり

又俗に云むしりびつとて宗光寺のあり山馬法

師の跡ありとをたれか六丁程にて宗光の地入り

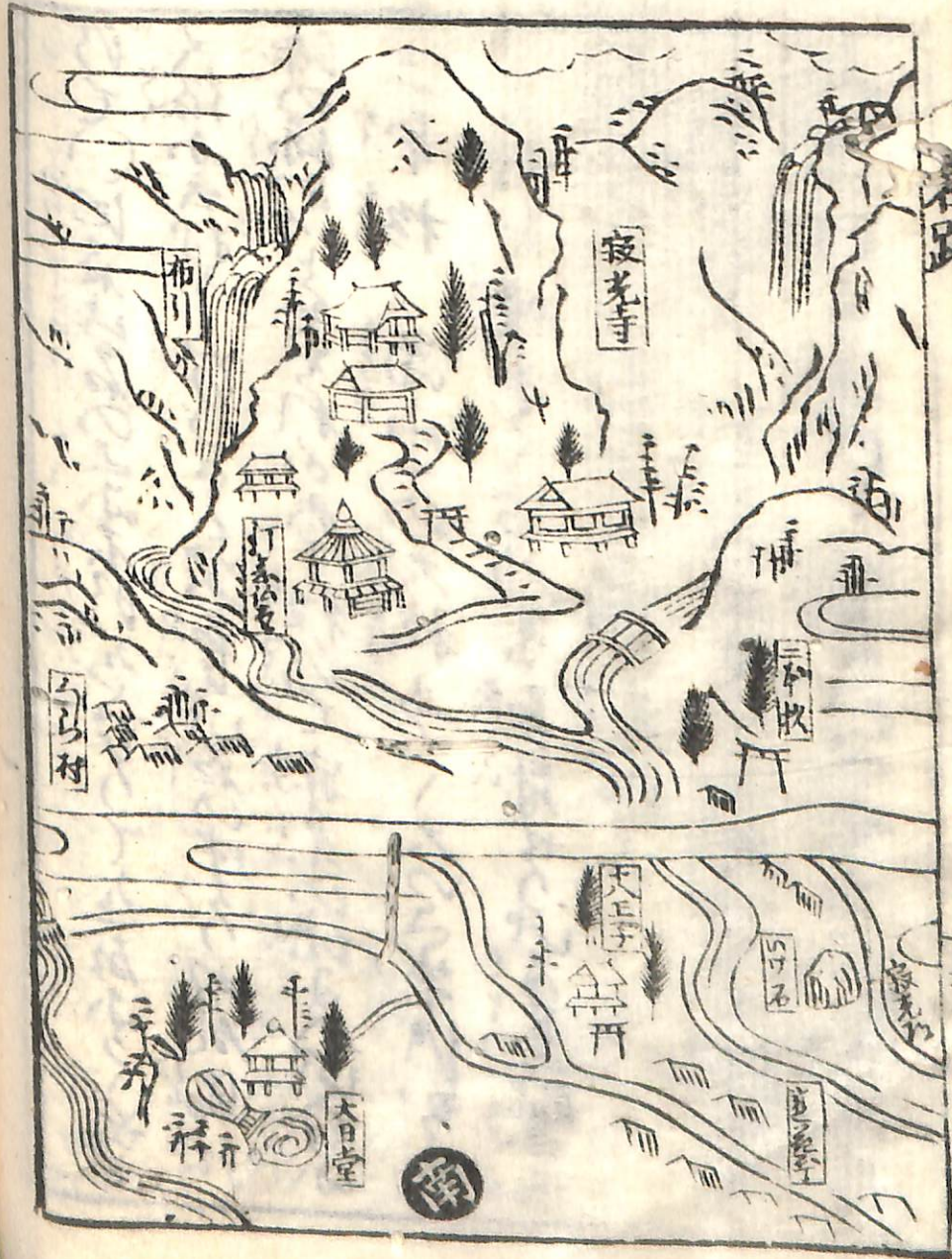
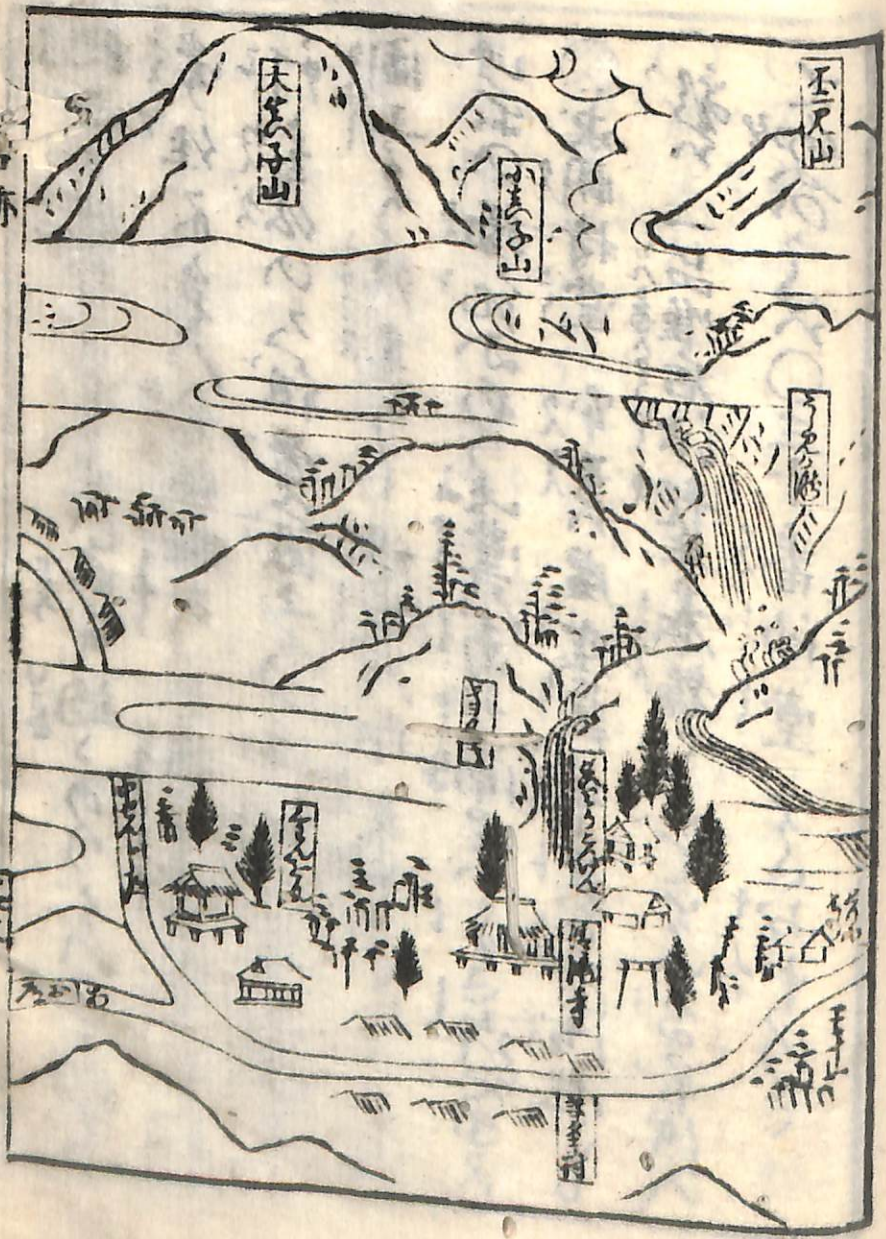
三本杉 尚山一の大杖ゆく大いす半派あり

一乃と接きく二乃木お對せりいよおの茶店

ありさしてよむ六七丁程ありたれり

○常念佛堂 本寺の除障三尊真心乃法傳あり

あり別は所傳と安置の此堂あり釘念佛乃



此堂の納むるも又いふは納りありとんふりて
 常任不怠の念仏相ありと御堂此うらに
 行喜仏の入祖曼源上人の法教ありと曼源上人
 圖玉より法身せり清取乃印文せりくりくハ
 此の極紀ありと堂乃南が満里小と云ふ事
 ○求圓持堂 中書ハ虚空藏并慈覺の法地し
 製 一品准后法親王表鏡しててとる者居法入
 て受のこる○三十番神堂 ともがせりりく

○不動堂并 ○三笠赤倉の表社あり又堂と○秘級
 ○御本社 宗光大権現ハ下照那命也并御天
 多の為社ハ弘仁十一度子年弘法大師御所基し
 浴室指ハ十二の年表白身乃鏡也の糸敷あり
 衣れりは源ありとの源とるふ遠く相茂
 室く更くさくしをり料守の布と晒がせり
 滝乃南小出るふ乃り巖峯のたのむりてふ
 死氣災起ハ伊字と空海とて書中ハ世のり

上ふ○二子山○大馬山奥ふ令○富士のふあり
 じふりの富士八高根とてやゆい○川俣は
 温泉あり常しく女人の入湯なり柳本村あり
 下りて○別所あり寺内小辨寺天十九童子河
 安堂とて寺の良乃ふ○羽黒滝とて入湯あり
 あれよりゆり原田より本町大工所とて入湯あり
 △養生院 此の山の墓あり権門の歌六法天際
 八等冷 妙見門とあり此寺の宝物あり回廊ふ

○阿弥陀堂 本寺ニ寺乃 弥陀表目の地あり
 あり大谷川の橋とて是を向河原とて小町あり
 △慈雲寺 神橋あり乃法十三町あり
 本寺ハ慈覺天師し涅槃の釈迦あり寺の表
 ハ大谷川なりこれよりゆき岩乃上
 △護国堂 此の合満が淵あり向小谷のうへに
 不動地名佛淵と稱してより此岩の淵に居る
 あり懸踏の梵字ありこれよりゆきたはる

○不鮮八地蔵其教法云く凡そ此の川端小

○灵庇閣 此閣あり龍宮なる所の絶景なり有

るを看眼と傳へてを院に於て此水首の廻

ら勢を香燭集り乃香雲城の待料坐す

○赤柳くまの

○骨堂 大なる岩と切ぬるより中(面)の

骨に納むるを羅子の書せる碑あり例

○平石をく十五の

石仏の大地蔵あり 座像を中 以後は大きなる例あり

慈重寺の門と入るあり此寺を二所傳へ皆此

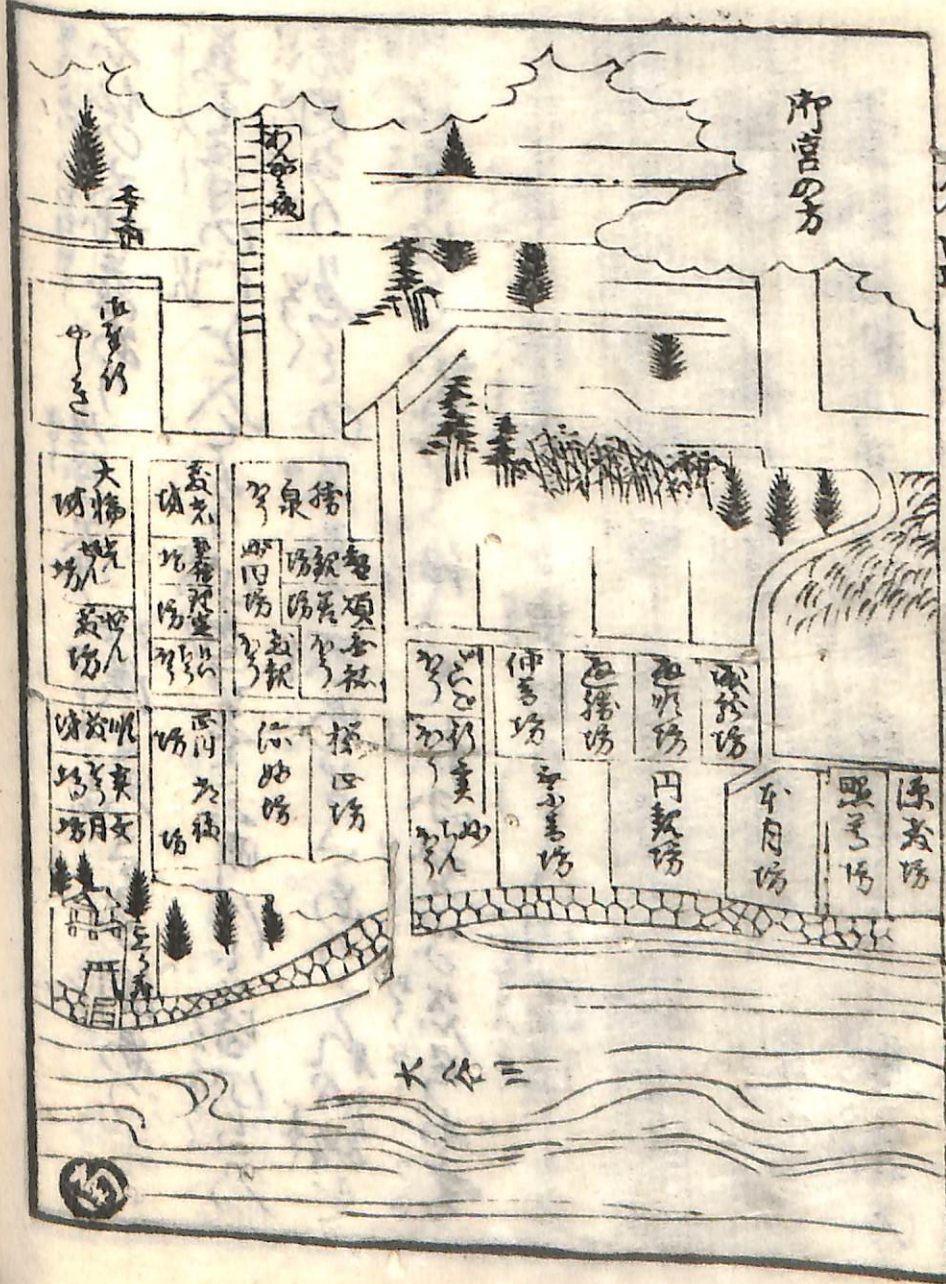
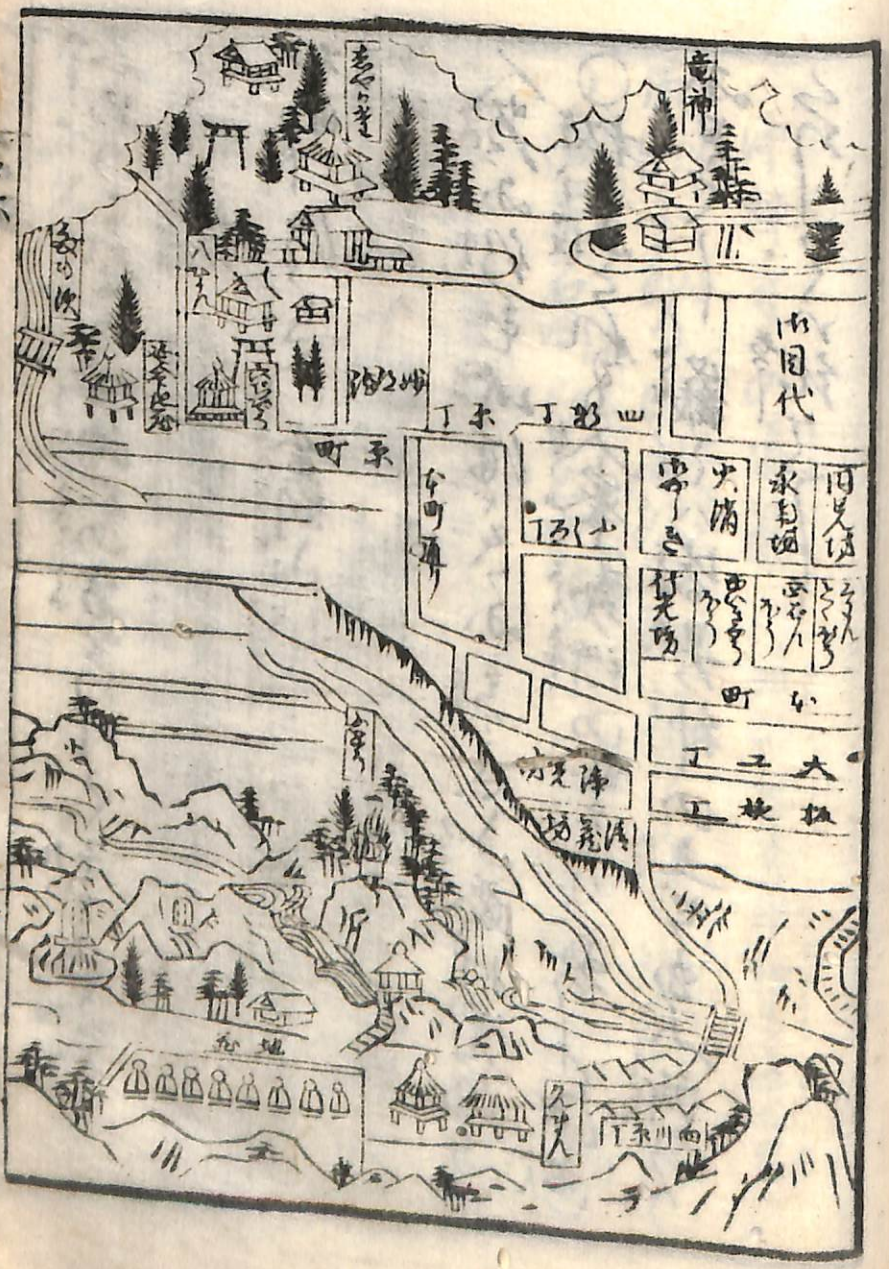
境内あり此寺の慈あるにありありこれ

あは寺にありあり此寺を二所傳へ皆此

乃出深は長くあり此寺を二所傳へ皆此

○素新滝あり此寺を二所傳へ皆此

乃出深は長くあり此寺を二所傳へ皆此



石ありえんうりゆ縁衣のきざりくもまいふり

△三の文山 本地薬師如來金剛童子乃堂あり

おのりけりさ○金剛山いよふ化粧の宿と入魂

ふ伏の宿あり秘窓鞠の乃備ありい所くハ

人たふびとびは備くふまきさ山敷れ見ゆふハ

○松立山うれも入峯勤行の宿ありあつていよ

ふ見くハ 嶽くハ皆男神の立せあふ所あり

くりくハ記ぐハ

△中禪寺への道筋

但神橋より中禪寺と三里

原所ふびり田母伏の橋とらうて川

○蓮花石所 坂とやうと○安徳堂あり所の中

後ふ○蓮花石ありいよむむう 務道中禪寺へ

ありやのふ時やうハ 陸中とい里のさうゆハ

落れくま蓮花石といふたのめ本立のうち

△十八王子 是び所の落守し是より三町余の

ふ久二良村と云ふありい村ハ社家尻最後のは

久々入り 此の
本寺茶陣二茶 希土神十五

寺村小△茶陣堂 神の御あり又まじり御あり

二町余ありたる奥△大日堂 此の御あり

大日し千躰佛と安齋に回ふ御堂あり

此の比形龜の伏ぐあり 龍小及び向ふ氷清く

等傳ありてお茶出乃妙言偶に所ふまじり

妙妙ありて毛香江ありてありて海堂あり

かくてありてありてありてありてありてあり

おのゝえ乃法二十町折々

△裏見が瀧 又湯返ありありありあり

このうらえが瀧の巖より響く音ありしりあり

巖く響く音ありしりありしりありしりあり

このうらえの下と色ありしりありしりあり

しりありしりありしりありしりありしりあり

此日なれは岩ありしりありしりありしりあり

しりありしりありしりありしりありしりあり

○砂子沃播ありむうりり ○産け子の足痕
あり石ありたのこふ ○鶴掛山 ○煩惱山あり砂子
沃りあり ○多井系地蔵堂ありたれり法滝村
△清滝寺 号勝福山と云 本寺子安の地蔵あり
聖徳太子不動ありび寺ハ母道院本寺とし
かろうゆふ少三滝の恒指じまほく観あり吉田ふ
○清滝権現 び少神ハ天生磐の法山ふ全比
神とありえ仏法擁護乃少神あり正月三日

乃る儀ハ修りありありいふれりハ巖屋屋と
ありガびり滝あり ○清滝と云れハ人里六丁に
○観音堂 本寺十子親音あり勝を上人
中禪寺 本寺乃親善のうら来と云ハ
あり法あり七人ありりり中禪寺あり林あり
をを此ありありと云ハ男女と云ハに廣く福と
法をせ給あり飯東十八番の礼と納あり堂あり
たれりのあり ○足尾村と云ハ洞山ありあり

乃ありとわたり五里ほどあり是尾と通の上列も
作ありとて親なる堂より木のこころ三丁ほどあり
○水沃村をいふはとて中より石社ありとて○牛王
坂といふをききうり甘原村より

△馬込村 中より牛王と入るも田舎ありとて
女人もくわたり禁ありあり是もて目越あり二里
あり河原とあり○深沢茶屋あり坂はよ如儀堂
ありとていふありくして○大平

○不動堂 石群しる道よりとてはまを河の平

○大尾といふは栗○神子石といふありとておび

○朱石ありとてありとてはたかたありとて

○朽御門 此下ありとてありとて

駕より下り赤笠とぬぐし是と入る

△中禅寺別所 補陀落山中禅寺是なりとて

はく美清の若姫離とてありとて

三郎のいけうて元意誠はも海よりなるる一に
 住者も此地に到ては味み今と櫻々の海に
 東舞とる人如命ふ海に著好るも海濱の味
 信公行小鑑をたつ事如くとの君如く
 半渡人とするふも海に記するふ事此立
 西とう一ふい湖氷長三里幅二里あり一里半
 海あり四角又茂林修竹あり湖ふ蓋ふと
 一の海に葉ひとも水魚の海に魚なる

深きれと魚ひとも海に珠とけありとあり
 熱とく浅く月ふ大湖三つありとのふ小と湖と
 もに四十八湖ありとのふ山の頂ふ多く湖あり事
 奇代乃君ふ如く事ふ湖に君ふ○溪の地蓋ふと
 わりともさうり本村大鳥居と入るたに○鐘樓

○不動堂 本寺五大明王 ○娘見社 又夫王のふも云

本寺千手観音堂 本寺千手観音堂長一丈六尺并

立木観音堂 本寺千手観音堂長一丈六尺并

天王乃像あり、傍に上人立本とて、その像小彫刻し、
その像版東十八番乃礼あり、素指の人、
と、神の別あり、
凡像、
惟、
御本社、
三社乃本社、
乃造堂、
神室、
藤、
金、

法華經一部、八葉の鏡一面、水中の香、
算、
授子乃、
楊、
夫と、
赤城、
秋、

氏子比之也其志をいある事し本社安否に
男體山(中)なる乃ありはあり○碑あり往古弘法
補陀落(穴)記とありの中古紙紙にありはあり
准之后公辨親王は亦ありし

男體山 又黒葉中にもい山昔妻比も亦は言歌あり

中(中)なる乃ありはあり積雪長あありて冬風
乃肌と徹家山頂ふ○三社権現立世路又甲(甲)の
所はく毎年七月七日節(節)家(家)に也るは附七月節日

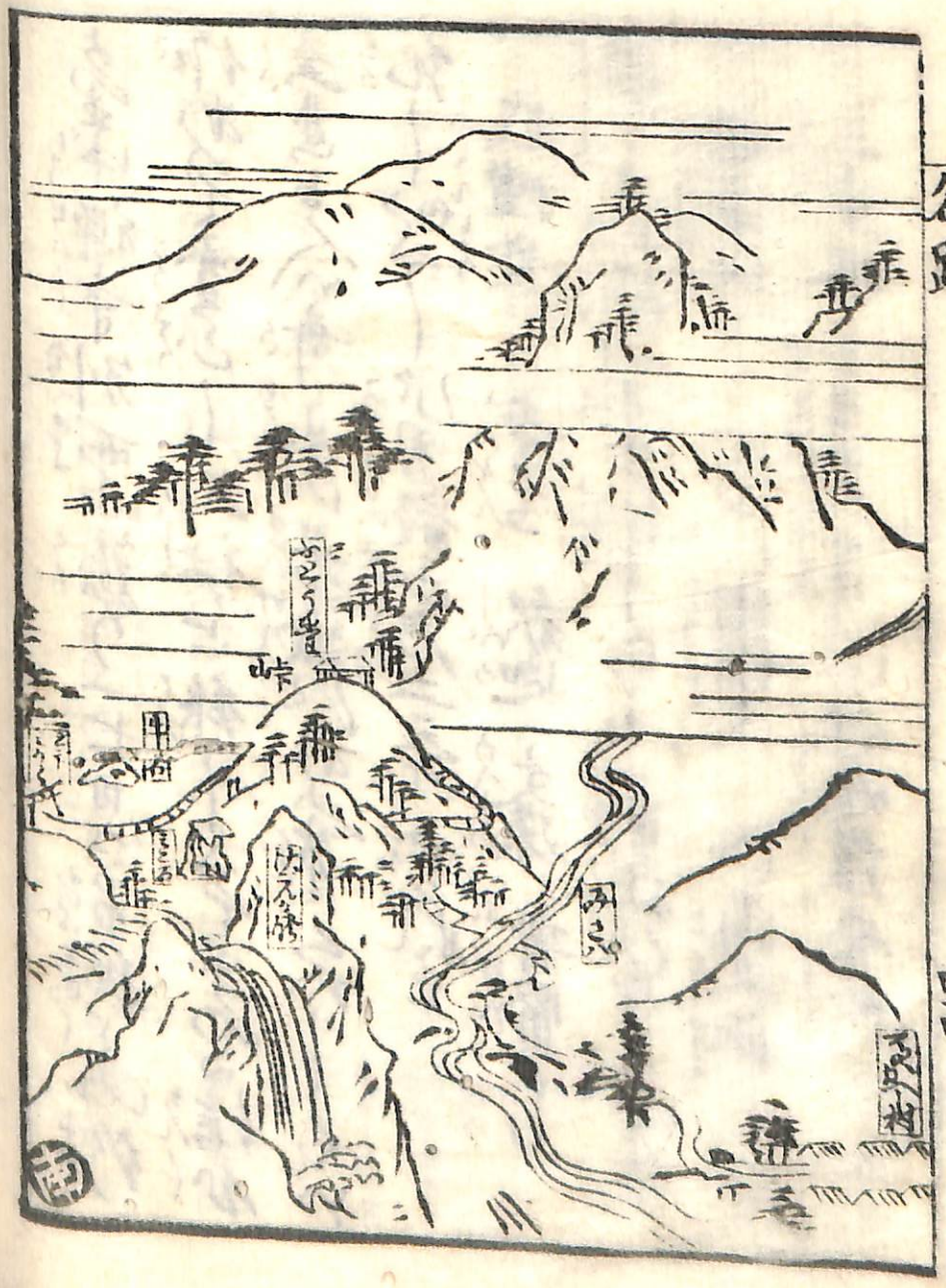
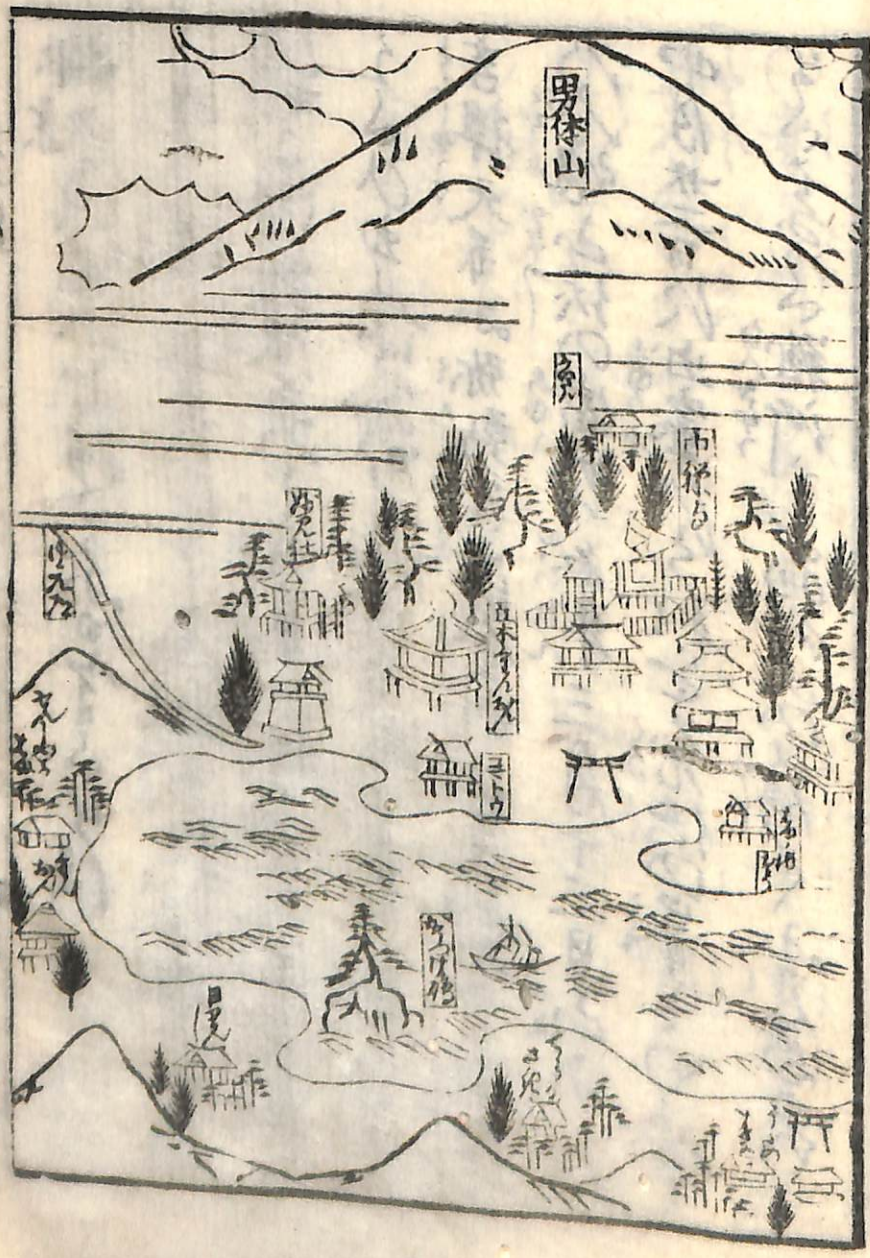
中(中)禪寺別所(別所)祭り一七日が(一七日が)君(君)種(種)の(の)行(行)
作(作)物(物)の(の)香(香)を(を)い(い)三(三)社(社)と(と)祭(祭)り(り)し(し)そ(そ)の(の)信(信)心(心)
至(至)る(る)人(人)の(の)奇(奇)也(也)の(の)身(身)論(論)に(に)あり(あり)事(事)六(六)一(一)く(く)い(い)

戒壇堂 本(本)寺(寺) 釈(釈)迦(迦) 文(文)殊(殊) 普(普)賢(賢)し

此(此)所(所)は(は)三(三)國(國)の(の)土(土)を(を)領(領)も(も)と(と)り(り)し(し)本(本)社(社)は(は)ひ(ひ)が(が)ら(ら)る(る)

根本社 ○六加羅天 ○山王社

三重塔 採(採)地(地)護(護)摩(摩)所(所)



湖水乃びじふとほるふとてな

○歌乃濱 ありては神軍に討つる

はるは凱陳ありて徳率の神速行

うとひわゆるふくはるは

吉祥天并ふ弥勒菩薩金剛童子ありて

乃入海山伏の宿ありて毎年三月十三日

四月廿二日に出来たりとて

あつたるは難所し海山の巻く

○寺々 浄土 兼師堂 ○日輪寺 大寺

掛乃北法新あり ○上野池 湖中乃居し一丁

い方何とありて乃の法皆は

○梵字石 ○龍燈石 ○猿石

○千手が瀆 龍巻堂并に法供所あり

七月廿七日乃行はく演祥頂し

知ふ系巻く乃号歌を稀く

信公堂の

新精なる此何ハ此れ別ニ一庭ノ地ヲ
 其ノ年乃判ニ其ノ地ニシ後ニ乃其ノ
 ありぬりて此ノ地ニ右此瀧多ク
 ○風風水 ○紅葉の浦 ○扇海の滝 ○火神
 ○大尾 ○宇津の滝 ○言瀧の滝 ○獅子の淵
 ○金ヶまゝ ○此ノ森多ク ○湯名乃乃別所
 其ノ地ニ其ノ地ニ一里ノ地ニ其ノ地ニ
 此ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ
 此ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ

比原二里四方もあらず一尚此ノ地ノ古
 といふも亦此ノ地ニ○弓張橋 ○幕張
 其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ
 鶴ハ日光様現ノ神鳥也其ノ地ニ其ノ地ニ
 も其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ
 其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ
 其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ
 其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ其ノ地ニ

交へ時ありぬ妻ふまふゆせり

つるもあはれ山室のさくら花のあけぬをば

と後房のうゑるをわきみしぬくまじしぬいふ

○湯滝とよと重る令くまふひよ近づく湯乃

例と通ふ○湯元一河湯吉家八軒あり

之月中旬より九月乃湯をて高店などあり

ぬき自由なり湯れたぬい

○御所湯 〇大谷の湯 〇滝湯 〇姥湯

○毎湯 〇自在湯 〇中湯 〇紫野湯

○河原湯 〇上湯乃品八色 湯坪十一町里

右乃湯乃も積と黄疽の急なり自余の病

何にとも事ぬなり湯師みとく高瀬

し湯師の筆本毎群集せり

○大真子 〇小真子 〇鉾山

○帝釈山 〇大王山 〇雪山 〇前二荒山

○三笠山 〇赤倉山 〇鈴ヶ嶽 〇温泉山

○女峰山 ○太師嶽 ○月山 ○白根山

○湯殿山 男爵山乃山の麓にあり 出羽の國

湯殿山と連なりし 夏湯及行ふこと勤て

此山系とし 裏見の海の乃篇と色り好し

○華嚴滝 是ハ中禪寺海峽大凡神子石の取

り 赤下谷に流るる湖水の流るり 奇く好む

尋の布と曝す 如く 其のまじり 天流り

ぬと 銀漢より 酒ちりりと 心かき さら 流る

銀河倒掛三石梁 香盧瀑布遙相望し 作

きともめり 中を母もり 道傍らり 大木とめり

滝橋と懸る 月をみり 空をこり びり 今ふあをぞ

激の色い 奇樹 灵州の花 流る 珠玉 雲系し

げあり ○大平不動堂のり せり し くれり

下向して 裏見の海 へ あり 水沢村のり せり

乃あり 一里ほど あり し くれり 大日堂のり

へり あり

吾日光 雲如淨刹 行く 孫と也る 成く 成く

四五日も 遠留せざれば 巡り 巡り 一

○日光名物

意惣公鳥 約者 糖 ぶろ 稚子

栗胤 ちんご 小豆 小豆

岩茸 推茸 自秘菓類 小独活

山椒皮 川海苔 索麩 あけび

胡鬼の子 繁三つてて 下は 実わり 四つを どの どの 何なり

後水尾院御製 ばくもりの 七事 ありあがりて ことこの こと入

草花の類

石南花 白根葵 藤根人參 黄連

子母老皮 岩の川 苔枕 石解 百合草

日光茶 日光生薑

細石類 膳 曲物 挽物 指物

諸方道法附 但日光神格あり

御宮 七丁 滝尾 十六半 清池 一里

御冥庭 土丁 寂光 一里 東山庭 一里半

新宮 十丁 會満 十三丁 中禅寺 三重

○青海庵、一里半 神橋のふもとに河津とよまう坊し

○かけはし 北庭、主下余 されい小倉山のひりし 菊し

○湯殿山、三重 ○中禪寺湯元、重 ○川俣湯元、八重

○足尾、六重 足尾とぬり上列 妙徳伊香保橋をへ

ゆくし日光より妙義のふとそ二十七里余

○今市、二重 此所既古のころ藤乃内柳 木成湯養花あり 日光湯用のよめ湯代友成のありし

△今市より五里 ○字般若、七重 ○麻沼、五重

△大田原、十里半 高家平、八里 板橋、三

△宇都宮通 今市町合ひし

日光、今市、二重

今市、大沢、二重

大沢、上渡良、二重

中塩、新

下塩、二重

此のあたりにあるはこれよりなり 大谷寺親善なるありし 塩沢より一里半ほどあり

△麻沼通 今市町と南へ

今市、板橋、三

今市町とのまは橋ありし

ありたのこのた大谷より ゆきし及のり又里余

板橋、麻沼、二

二宿の岩文様ありし

あり日光より此のあたりに ありしとゆは日光より ありしとゆは日光より

大谷入りくんの三三三三三

上座下小字新三三三

宇都宮 蓮花寺 下

大田東 十里半あり

蓮の寺 石橋 一里半

石橋 小金井 一里半

小金井 新田 北九丁

新田 小山 一里半

●日光 小山 二十六里

赤沼入り 十丁 余り

大門宿より 村あり 海分

おのこふ出流山のたあり

日光 妙流 十三里

赤沼 赤沼 二里

赤沼の先 赤沼 一里

日光 日光 出流 一里

日光 日光 出流 一里

日光 日光 出流 一里

日光 日光 出流 一里

奥羽海道 大田東より

今市 大田 一里

いり大谷川 橋あり

大田 舟生 一里半

いり大谷川 橋あり

舟生 玉生 一里半

舟生 舟生 一里

舟生 舟生 一里

赤沼 舟生 一里

舟生 舟生 一里

日光 日光 出流 一里

●日光 小山 二十六里

△会津海道 五十里

今市 大田 一里半

大田 舟生 一里半

一奥列海道 大里

今市の大渡へ可

い乃大谷川橋あり

大渡の舟生一可半

い乃蒲川あり

永集玉生一可半

玉生の舟生一可

高尾の矢板一可

素板舟玉生一可半

玉生の飯塚一可半

飯塚の小玉一可半

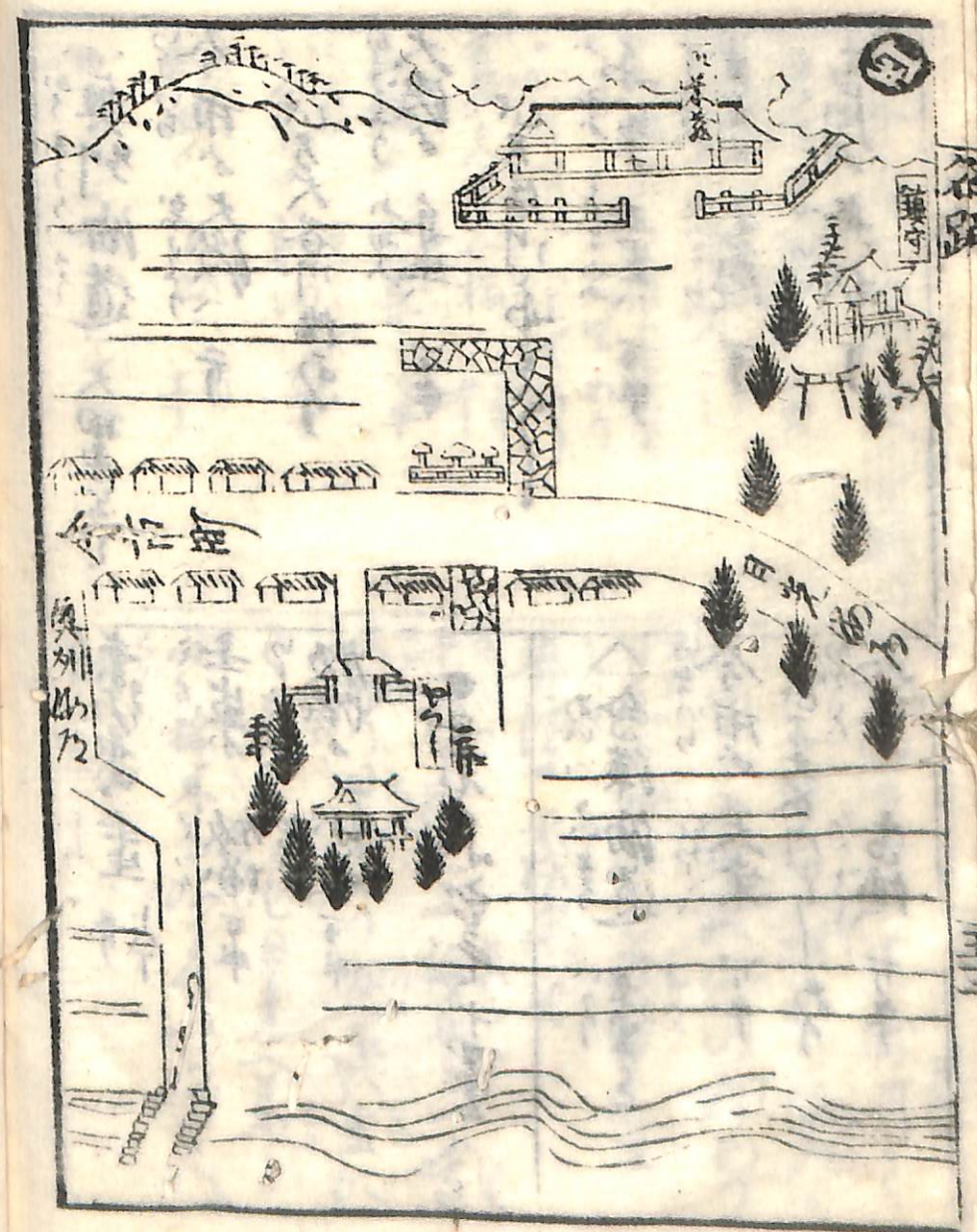
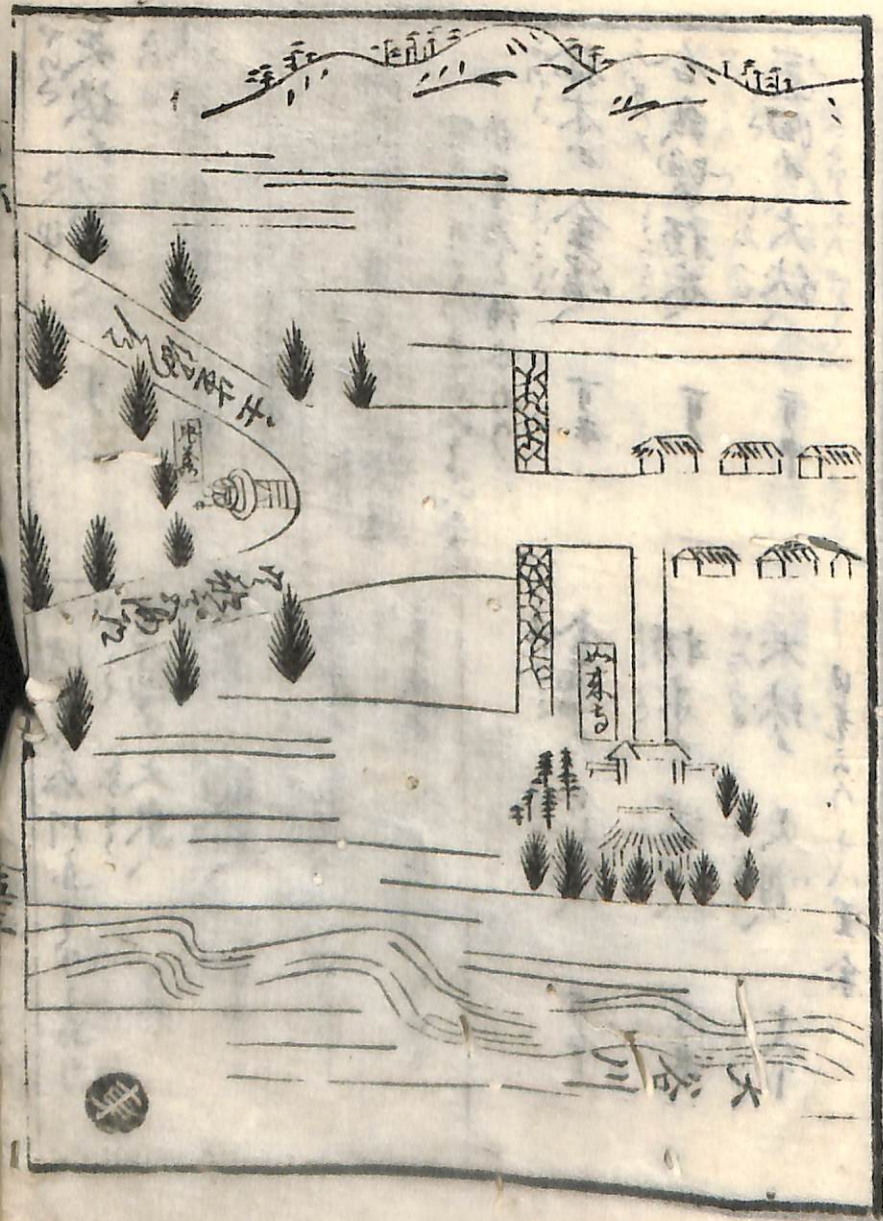
●日光の小玉を十貫

△會津海道 五貫

今市の大栗一可半

い乃大谷川あり

大栗の高尾一可半



矢板 漢村 可

漢村 大田原 可半

●日光より十三里半

△佐野海を昇上列の煩絡

橋本の所よりきねのこへ入る
傍聖名と橋本あり

橋本 金湯 可半

合戦場 橋本 可

漢田 大伏 可半

日光より川原まであり

大原 大原 可半

大原 大原 可半

大原 大原 可半

大原 大原 可半

金湯 合戦場 可半

橋本 富田 可半

大伏 天明 可半

日光より十八里余

△日光山坊舎并徒夜僧流

一山学野

東照宮御別所

御霊屋御別所

新官御別所

慈眼堂御別所

○衆徒中二十坊并徒火名流宿坊附

戸伏上縁及唯公院 東山

佛学院僧正

大樂院

龍光院

安親院

五量院

井伊掃部院及南照院 東山

松平右京大夫 松平相模守及 松平薩摩守及 毛利周防守及 松平修理大夫及 酒井非木及 松平伊豆守及 牧野越中守及 土屋但馬守及 六田備中守及 美田豊後守及 松平加賀守及 松平少将守及 松平陸奥守及	安居院 越城院 松本院 善本院 警王院 忍承院 法門院 觀音院	東山 日 日 日 日 日 日 山
尾列棟 善堂本泉守及 黒田肥前守及 松平土佐守及 松平安房守及 紀州棟 松平秋田守及 酒井左衛門守及 水戸棟 山藤後守及 松平文相守及 佐竹右京大夫 松平出羽守及	日智院 救城院 禪智院 獲光院 苑藏院 兼源院 淨土院 宝教院	東山 日 日 日 日 日 山 日

松平右近將監
松平義倫
光樹院
中山
石田山城守及
秋元信實守及
照善院
南谷

○一坊八十字

●東山谷

永親坊 鏡泉坊 本誓坊 救本坊 實務坊	東山谷 東山谷 東山谷 東山谷 東山谷	妙金坊 悦秀坊 光榮坊 法光坊 佛觀坊	東山谷 東山谷 東山谷 東山谷 東山谷	日輝坊 佛秀坊 祐甫坊 及福坊	東山谷 東山谷 東山谷 東山谷 東山谷
---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	---------------------------------	--------------------------	---------------------------------

●佛岩谷

西任坊 秋源坊

正定坊 妙力坊

高唐坊 常親坊

妙日坊 色業坊

●南谷

淨泉坊 奉月坊

殊以坊 通以坊

雲如坊

淨久坊

龍親坊

林叢坊

南親坊

光善坊

漢波坊

親如坊

久月坊

馬業坊

撤了坊

通清坊

●無住坊

醜醜坊

仲善坊

昌光坊

崇善坊

塔秋坊

竹宮坊

妙珠坊

●西山谷

不執坊

極心坊

正源坊

唯源坊

智親坊

高親坊

慶住坊

什光坊

彌善坊

深如坊

正龍坊

永南坊

秀秋坊

秀福坊

親德坊

秀泉坊

●善女寺谷

社方

天林坊

實為坊

教老坊

正光坊

光禪坊

文月坊

如香坊

松香坊

行香坊

理宣坊

深藏坊

掃守坊

以教坊

蓮勝坊

金義坊

道龍坊

日光名跡誌 大序



享保十三戊申壬子如月元版

明和元年甲申仲秋改版

御免板元

日光山石屋町

遠藤喜六



